



（写真）大統領府 “マドゥロ大統領 ボリバル送金に対する課税（税率2%）の停止を発表”

2024年7月12日（金曜）

政治

- 「[与野党の選挙キャンペーン 与党はスリア州～野党はカラボボ州、若者グループと集会～](#)」
- 「[野党にネガティブなフェイクニュース拡散](#)」

経済

- 「[大規模金融取引税 ボリバル送金の課税停止～法定通貨ボリバルの利用拡大を目指す～](#)」
- 「[ボリバル送金の課税停止 経済界の反応](#)」

社会

- 「[チリ亡命軍人の殺害容疑者 コスタリカで逮捕](#)」
- 「[チャカオ市に新たな精肉店がオープン](#)」

24年7月13-14日（土・日）

政治

- 「[元AD幹部プロスペリ氏 野党の汚職告発～マドゥロ大統領への支持表明～](#)」
- 「[マドゥロ政権 野党関係者への迫害強める](#)」

経済

- 「[自動車販売台数 月800台まで回復](#)」
- 「[24年前期 SIDORの工場稼働率は1.5%](#)」
- 「[与党国会 7月16日に輸出促進策を議論](#)」
- 「[マルガリータ島 不動産セクター30%増](#)」

社会

- 「[野良犬 Mancha 消息不明で抗議デモ](#)」

2024年7月12日（金曜）

政治

「与野党の選挙キャンペーン 与党はスリア州
～野党はカラボボ州、若者グループと集会～」

7月12日～14日までの与野党の選挙活動の概要を紹介したい。

7月12日 マドゥロ大統領は「国家経済生産性委員会」の会合に出席。経済界の関係者らを前に演説を行った。



その後、スリア州を訪問。支持者らを前に演説を行った。



7月13日 マドゥロ大統領は日中にポルトゥゲサ州 Guanare（下写真）、夜はカラボボ州 Guacara を訪問。支持者らを前に演説を行った。



7月14日 カラカスの大型イベント会場「Poliedro de Caracas」にて、選挙集会を実施した。



（写真）@PresidencialVen

7月12日 マリア・コリナ・マチャド氏（MCM）は、13日に予定されているカラボボ州での選挙集会に参加するためカラカスから移動。

移動の途中、軍部にバスの移動を妨害されたらしく、バイクで移動。

ゴンサレス候補については、ソーシャルメディアの投稿を見る限り、カラボボ州への移動で特に問題はなかったようだ。



7月13日 MCM氏とエドムンド・ゴンサレス候補は、カラボボ州バレンシアを訪問。大勢の支持者の前で演説を行った。



7月14日 MCM氏とエドムンド・ゴンサレス候補は、「ベネズエラ中央大学 (UCV)」を訪問。集まった学生らに対して投票を呼び掛けた。



(写真) @ConVzlaComando

「野党にネガティブなフェイクニュース拡散」

ゴンサレス候補にネガティブな影響を与える趣旨のフェイクニュースが拡散されている。

1つ目は、「ゴンサレス候補の娘である Erika Carolina González 氏が犯罪に関与したため逮捕された」というニュース。

Ernesto Meléndez という与党支持者が投稿し、その内容を「Venezuela News」「El Universal」「Globovision」などが拡散したようだ。

他にエドムンド・ゴンサレス候補の甥がバイデン大統領の補佐役を務めているとのフェイクニュースも拡散されている。

ゴンサレス候補の甥と思われる人物の写真も公開されている。少しゴンサレス候補の面影があるが、その人物は Rafael Tudares Bracho という名前でゴンサレス候補ともベネズエラとも全く関係がないという。



(写真) Maduradas

他、ソーシャルメディア上で野党の選挙キャンペーン資金を募る趣旨の投稿が拡散されているという。

しかし、これらの投稿は全て虚偽で野党グループはソーシャルメディアを介して選挙資金集めは行っていないと公表している。

経 済

「大規模金融取引税 ポリバル送金の課税停止

～法定通貨ポリバルの利用拡大を目指す～

7月12日 マドゥロ大統領は、「国家経済生産性委員会」の会合に出席。

同会合にて、「大規模金融取引税 (IGTF)」の改定を発表した。

IGTFは、「徴税庁（SENIAT）」が「特別納税者（一定の収入がある法人・個人）」に認定した対象者のボリバル建て送金に2%の税金を課すことを定めた法律。

マドゥロ大統領は、この税率の適用を停止すると発表。修正内容は既に官報で公布されており、同官報によると7月15日から適用される。

なお、マドゥロ政権は2022年3月末にIGTFを修正。22年4月から全ての法人・個人のドル決済に一律3%の税を課すとの規則が加わった。ドル決済に一律3%が課税されるという規則は変わっていない。

マドゥロ大統領は、「現在のベネズエラでは多くの通貨が使用されているが、ベネズエラの法定通貨はボリバル」とコメント。

「現在のベネズエラは為替レートも物価も安定しており、法定通貨としてのボリバルの使用を拡大させるためにボリバル建ての送金の課税を廃止する」と説明した。

なお、IGTFは、日本で言う消費税に当たる「付加価値税（IVA）」、「所得税（ISLR）」に続いて3番目に多い税収項目であり、マドゥロ政権にとっては歳入減を意味する。

「ボリバル送金の課税停止 経済界の反応」

IGTFのボリバル建て課税がなくなるとの噂は2023年8月から存在しており、1年越しに実現したことになる。

ボリバル建ての送金に税が課されなくなることは、民間セクターにとっては朗報である。

「全国商業・サービス評議会（Consecomercio）」のGustavo Valecillos代表は、IGTFの法改定を歓迎。

「企業の利益を拡大することができる」
「現在、企業の税負担率は異常に重く、営業利益の60%は税金の支払いに充てられている」と言及した。

また、Valecillos代表は、今回の法改定について「“IGTFのボリバル建て課税が廃止された”というのは正確な表現ではない」と指摘。

「今回の法改定により、IGTFのボリバル建て課税が2%から0%になったというのが正確な表現」とし、今後0%が再び2%に変更される可能性があるとの懸念を示した。

他、与党系の経済団体として知られる「ベネズエラ中小企業連合（Fedeindustria）」のオーランド・カマチョ代表も、今回の法改定を歓迎。

「政府は経済界の声に応えた」「2%の税が無くなることにより、ボリバルの使用が拡大し、企業の負担が減少する」「我々が価格を引き下げることが容易にし、企業の利益を拡大させることができる」との見解を示した。

社 会

「チリ亡命軍人の殺害容疑者 コスタリカで逮捕」

7月12日 コスタリカ政府は、パナマとの国境の町Paso Canoasにて、Ronaldo Ojeda Moreno氏を殺害したとされるVillegas Rodríguez氏を逮捕したと発表した。

Moreno氏は元ベネズエラ軍人。

2017年にマドゥロ政権に反旗を翻したが、反乱・クーデターなどの罪で逮捕された。しかし、同年11月に脱走。チリに亡命していたが、24年2月にチリのサンティアゴにて殺害された。

Moreno 氏の殺害にはベネズエラ系マフィア「Tren de Aragua」が関与しているとされており、1名（17歳のベネズエラ人男性）はチリ警察により逮捕された。

しかし、他にも Moreno 氏の殺害に関与した人物が複数いるとされており、チリ警察は他の関係者は国外に逃亡したとして、国際指名手配をかけていた。

また、Moreno 氏はチリ国内でマドゥロ政権の倒壊作戦を計画していたことが明らかになっており、マドゥロ政権関係者が「Tren de Aragua」関係者に Moreno 氏の暗殺を依頼した可能性が指摘されている。

しかし、捜査の中で Moreno 氏がマドゥロ政権の倒壊作戦を進めるに当たり、「Tren de Aragua」に協力を求めたが、同組織との間で何らかの問題が発生し、逆に命を狙われる立場になり、殺害されたとの報道もある。

いずれにせよ、現時点でチリ警察は Moreno 氏の殺人事件について正式な発表をしておらず、正確な情報が判明しないまま現在に至っている。

Villegas Rodríguez 氏の逮捕を受けて、チリ政府はコスタリカ政府に身柄引き渡しを要請。Villegas Rodríguez 氏の証言により事件の全容が解明する可能性がある。

なお、殺害される前の Moreno 氏の様子と口座の動きには不審な点が多く確認されており、Moreno 氏の家族が何か重要な情報を知っている可能性が高いとされるが、家族は口を閉ざしている。

7月12日 Moreno 氏の妻 Jasmarghy Castillo 氏とその子供がアルゼンチンに亡命したと報じられた。ミレイ政権が亡命を承認したという。

Jasmarghy Castillo 氏の弁護士は7月4日にアルゼンチン政府に亡命申請を行ったようで、異例のスピード承認で不自然さを感じる。

「チャカオ市に新たな精肉店がオープン」

日本人が多く住むチャカオ市に「Sr Ganado」という新たな精肉店がオープンした。

「Sr Ganado」はスリア州の農家が経営する精肉店で、同店舗の特徴は商品に完全なトレーサビリティ（商品の生産者・流通・販売経路が全て明確になっている）がある点だという。

「Sr Ganado」の経営者である Raúl Labarca 氏、Luis Bravo 氏は「我々は生産者として製品の品質を保証する」「全ての商品の生産・流通に我々が関与しており、牛が生まれた頃から消費者の元に渡るまで全てを確認している」と説明している。

「Sr Ganado」の住所は、Avenida Francisco de Miranda, Edificio Sacoje, Piso 0, Local 1, en Chacao, Caracas



(写真) El Estímulo

2024年7月13日～14日（土曜・日曜）

政治

「元 AD 幹部プロスペリ氏 野党の汚職告発
～マドゥロ大統領への支持表明～」

7月13日 「行動民主党 (AD)」の元幹部カルロス・プロスペリ氏が記者会見を実施。独立系政治家として、マドゥロ大統領を支持すると表明した。

また、野党が汚職を行っていると言われる証拠を公表。選挙キャンペーンでのイレギュラーなども訴えた。

プロスペリ氏は、2023年10月に行われた予備選挙（大統領選の野党統一候補を決めるための選挙）にて、「行動民主党 (AD)」の推薦候補として出馬した人物。

予備選挙は MCM 氏の大勝に終わったが、プロスペリ氏は予備選挙にイレギュラーがあったと主張し、選挙結果を認めないと表明。

一方で、AD は予備選挙の結果を受け入れると発表。プロスペリ氏は AD を公然と批判するようになり、最終的に AD から除名されていた。

プロスペリ氏は、AD のラモス・アジュップ幹事長の右腕として長年活動してきた人物で、主要野党の中核を担う人物の1人だった。

そのプロスペリ氏がマドゥロ大統領の支持を表明するのは大きなサプライズと言える。

また、プロスペリ氏は、主要野党が対外的に公表できないような内情も把握しているはずで、野党にとってもプロスペリ氏の行動は大きな懸念材料になることだろう。

プロスペリ氏は、野党の一部グループが私腹を肥やすために CITGO、Monmeros を分裂させたと指摘。

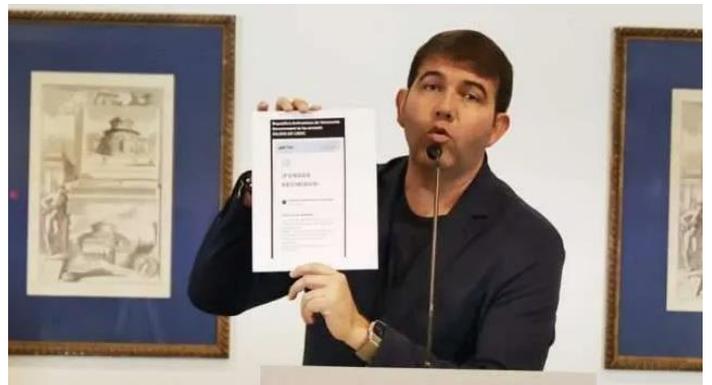
制裁を交渉ツールとして使用するため、民主主義と自由擁護のレトリックでベネズエラ国民の生活を悪化させたと訴えた。

また、野党は今も外国にあるベネズエラ政府の公金を野党の活動費として使用していると指摘。

7月3日に「ベネズエラ政府」の名義でプロスペリ氏の口座に9000ドルの着金があり、プロスペリ氏がこの受け取りを拒否したところ、口座から9000ドルが差し引かれ、着金記録が抹消されたという（プロスペリ氏は証拠らしき書類を提示しているが、記者会見では詳細は確認できなかった）。

これを理由にプロスペリ氏は、ベネズエラ検察および米国金融当局に、野党が管理しているベネズエラ政府資金の動きを捜査するよう要請した。

また、プロスペリ氏は「一部のグループが武装勢力と結託しベネズエラで暴動を計画していることを懸念している」とも述べている。



（写真）カルロス・プロスペリ氏 X
“野党がベネズエラ政府の名義でプロスペリ氏に
9000ドルを送金したとされる証拠資料を提示”

「マドゥロ政権 野党関係者への迫害強める」

マドゥロ政権による野党関係者への迫害が続いている。

6月27日～28日にかけて MCM 氏へ宿泊先を提供したタチラ州の企業家 Ricardo Albacete Vidal 氏がマドゥロ政権に拘束された。

Albacete 氏は、ラミア航空のオーナー。

ラミア航空は、2016年11月に同社の飛行機がボリビアからコロンビアに移動中、コロンビアのアンティオキア県で墜落し、71名の死者が出る大惨事を起こしたことで世界的に知られている。

タレク・ウィリアム・サアブ検事総長は、Albacete 氏を逮捕した理由について発表。Albacete 氏はタチラ州にて電力施設の設備の窃盗をし、販売していたと発表。証拠として Albacete 氏が所有するとされる倉庫の写真と映像を公開した。

他、7月14日にポルトゥゲサ州 Guanare の選挙イベントの指揮を執っていた Mary Rodríguez 氏、Mayra Montilla 氏らが国家警察・国軍に逮捕されたという。

また、同日にモナガス州でゴンサレス候補の選挙対策グループの幹部を務めていた Ángel Aristimuño 氏、MCM 氏をカラボボ州までバイクで乗せた人物 Elisaul Rodríguez 氏も逮捕されたと報じられている。

経 済**「自動車販売台数 月800台まで回復」**

自動車セクターに詳しい Sergio González 氏は、ラジオのインタビュー番組に出演。

ベネズエラの自動車販売が増加していると指摘。販売増加の理由として自動車ローンの拡充を挙げた。

Sergio González 氏によると、現在のベネズエラの自動車販売台数は月700～800台だという。

「24年前期 SIDOR の工場稼働率は1.5%」

国営製鉄公社「SIDOR」の労働組合の Jean Franco 氏によると、2024年前期（1～6月）の鉄鋼生産量は6593トンだという。

SIDOR の製造能力は年間510万トンであり、現在は生産能力の僅か1.5%に留まっているという。

SIDOR の前社長である Néstor Astudillo 氏は、2023年3月に始まった汚職撲滅オペレーションで逮捕されたが、Néstor Astudillo 氏が社長を務めていた当時の稼働率は生産能力の3.5～5%だったようで、現在よりも良かったという。

「与党国会 7月16日に輸出促進策を議論」

マドゥロ大統領は、非石油部門の輸出を促進するための新たな法律を議論するよう指示。

マドゥロ大統領は、ベネズエラ経済を回復させるためには輸入を減らし、国内生産を増やす必要があると主張。

また、輸入で外貨を流出させるのではなく、輸出を通じて外貨を流入させるような経済構造を構築する必要があると訴え、輸出を拡大するための法的基盤を整備する必要性を訴えた。

この訴えを受けて、7月16日に与党国会にて輸出促進法を議論するという。

「マルガリータ島 不動産セクター30%増」

ヌエバエスパルタ州の Morel Rodríguez Ávila 知事は、ラジオのインタビュー番組に出演。マルガリータ島の不動産セクターの業績が好調と言及した。

Ávila 知事によると、2024年前期（1～6月）のマルガリータ島の不動産セクター売り上げは前年同期比30%増だという。

Ávila 知事は「2年前、同セクターは完全に止まっていた」「住民はマルガリータ島を去っていたが、今はそのような雰囲気はない」「マルガリータ島の経済が再び活性化することを期待しており、そうなるために善処している」とコメントした。

また、2024年前期の観光業は前年同期比15%増だという。

社 会**「野良犬 Mancha 消息不明で抗議デモ」**

日本ではあまり見かけないが、ベネズエラでは都市部でも野良犬が普通に生活している。

愛嬌のある野良犬は地域住民に親しまれ、地元のマスコットのようにかわいがられることも珍しくない。

チャカオ市の La Carlota にあるドラッグストア「Farmatodo」の近辺にも「マンチャ」と呼ばれている野良犬がおり、地元住民にかわいがられていたが、24年4月に突然姿を消した。

Farmatodo のオーナーがマンチャを捕まえ、どこかに移送したとの噂が流れており、地元住民はマンチャの所在を明らかにするよう求める抗議行動を開始。

この抗議行動はソーシャルメディアを通じて拡散され、検察庁にも知られることになった。

この状況を受けて、タレク・ウィリアム・サアブ検事総長は、動物虐待の可能性があるとして La Carlota の「Farmatodo」オーナーを逮捕。事情聴取を開始すると発表した。

なお、ベネズエラには動物愛護法があり、動物虐待は禁固刑を含む刑事罰を受ける可能性がある。



(写真) @Ma_Elsa_G

以上